

武田 惣角(たけだ そうかく) 1860～1943

惣角は、会津あいづの宮相撲みやずもうで大関おおぜき(しこ名しらいと 白糸)
だった武田惣吉そうきちの次男として町内の御池おいけ(現在の御池田)に生まれました。

目が見えない妹を守り世話をするやさしい兄でしたが、間違っていることには、たとえ相手が大人でも「間違っている」という正義感の強い子どもでした。



武田惣角

10才のころから藩士佐藤金右衛門に剣術や護身術(柔術)を習いはじめ、20代で易者中川万之丞から修験道の医療技術・易学・気合術、真言密教などを修行しました。その結果、気の利用した独自の技わざをたくさん身につけ、惣角はこれを「合気」と呼びました。やがて「大東流合気柔術」を創始してたくさんの人々に教え、日本の近代武術に大きな影響をあたえました。